



御浜町はこんなまちです。



地勢・気候

御浜町は三重県の南端にあり、北・西は熊野市、南は紀宝町に隣接し、紀伊山地を背に雄大な太平洋を臨みます。また、熊野灘に面して20数キロにわたって続く美しい七里御浜の中間部に位置し吉野熊野国立公園域でもあります。

気候は典型的な海洋性気候で、年間平均気温は17.6℃、年間降水量2300ミリの温暖多雨な地域で降雪はほとんどありません。この温暖な気候を活かし、一年中みかん(柑橘類)が栽培されています。反面、台風が多い地域でもあり、短期間の強雨が多いことが特色です。

アクセス

- JRで
 <名古屋より>関西本線經由紀勢本線「特急ワイドビュー南紀号」にて2時間50分で熊野市駅、普通列車にて16分で御浜町阿田和駅に至る。
 <新大阪より>きのくに線「特急オーシャンアロー号」にて3時間50分で新宮駅、普通列車にて16分で御浜町阿田和駅に至る。
- バスで
 <名古屋より>三重交通「名古屋南紀高速バス」にて3時間50分で熊野市、路線バスにて20分で御浜町に至る。
- マイカーで
 名古屋→勢和多気JCT→大宮大台IC→御浜町 3時間15分
 大阪→美原JCT→葛城IC→大和橿原→御浜町 3時間15分

町の歴史

御浜町は、日本書紀にも記された紀伊国熊野の有馬村に隣接しており、熊野市とともに我が国古代文化の発祥の地として知られています。

町内の志原や市木の河口、尾呂志の山中などには古代遺跡があり、珍しい石器や土器が発見されています。

古くは熊野権現の神領地でしたが、平安、鎌倉の荘園時代には荘司によって統治されました。戦国時代には一時戦乱の余波に巻き込まれたものの、神木村、片川村は紀州藩の直轄、他の地域はその後250年にわたって紀州藩家老水野氏の統治をうけ、明治維新を迎えました。廃藩置県によって紀州藩から分立した新宮県に属していましたが、その後新宮県が廃され、熊野川・北山川を境界として、以西を和歌山県、以東を度会県に編入。明治9年4月に度会県が廃止されて三重県に編入されました。

明治20年4月に市制及び町村制制度が施行され、神志山村、市木村、阿田和村、尾呂志村の4村が誕生し、後に市木と尾呂志の2村が合併し市木尾呂志村となりました。その後阿田和村は阿田和町となり、神志山村のうち金山、久生屋地区は熊野市へ合併する等の経緯がありましたが昭和33年9月1日、阿田和町と市木尾呂志村、神志山村が合併して御浜町が誕生しました。